

Cente Technical Information

発行番号	001-0040	Rev	第2版	発行日	2010/04/26
題名	遅延書き込みマクロを有効にして運用した場合の不具合について				
情報分類	技術情報				
適用製品	Cente FileSystem Ver 5.50 – Ver 5.70 Cente exFAT FileSystem Ver 1.00				
影響API	【Cente FileSystem】 fclose・fflush・fwrite・putc・puts・fopen・fgetc・fgets・fread・fseek・ fopen_cl・fopen_hash・chg_filelen・fopen_uni 【Cente exFAT FileSystem】 fclose・fflush・fwrite・putc・puts・fopen・fgetc・fgets・fread・fseek・ fseek64・chg_filelen				
関連資料	なし				
【現象】 遅延書き込みマクロを有効にして運用すると、ファイルシステムで保持しているバッファのデータが書き換わってしまい、書き換わったデータをデバイスに反映してしまう場合があります。					
【原因】 遅延書き込みマクロを有効にして運用すると、遅延書き込みタスクでfflushを行います。 他のタスクでfwriteなどを実行中にディスパッチが発生した場合、遅延書き込みタスクでfflushを行うのでファイルシステムで保持している入出力バッファが書き換わってしまい、書き換わってしまったデータをデバイスに反映してしまいます。					
【回避方法】					
■運用での回避方法 遅延書き込みマクロ(DLYWT)を0(無効)で運用して下さい。					
■プログラム修正による回避方法 修正方法を検討中です。					